



制度〈基本〉

運用・商品〈基本〉

運用・商品〈実践〉

その他

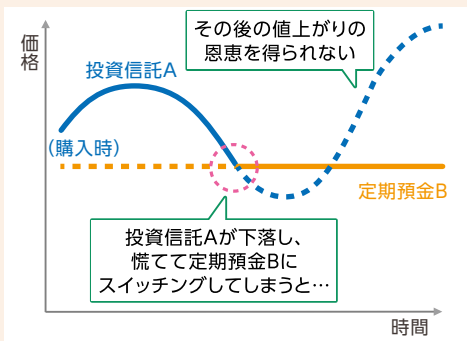
保有商品が値下がりしたときの心得

株式や債券等の価格は日々変動するため、投資信託の価額も毎日変動します。ご自身が購入している商品が値下がりし、評価がマイナスになったら、どうしたら良いのでしょうか？



まずは、慌てて売らずに長期で考える

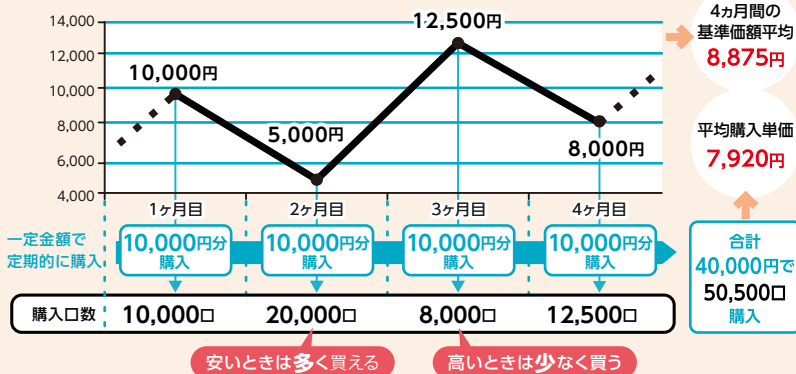
保有している間はいわゆる「含み損」で、潜在的な損失の状態ですが、その状態で、これ以上下がるのが怖いからと慌てて定期預金等の安全資産にスイッチングしてしまうと、損失が確定してしまいます。さらなる損失は防げても、その後の値上がりのチャンスを失うことにもなりかねません。確定拠出年金は、原則60歳以上まで続けていただく長期の制度です。長期の視点で運用を続けることを考えましょう。



値下がり時も、掛金での購入を続ける

値下がり時は、商品を安く買えるチャンスでもあります。安い時期に運用商品を購入し続けることで、平均購入単価を下げることができます。定期定額での購入は、自然と、高い時には少なく、安い時に多く買えるので、結果として同じ口数ずつ購入するよりも安定的に利益が期待できます。(ドルコスト平均法)

ドルコスト平均法イメージ図（値動きのある投資信託購入の例）



(1万口当たり) 平均購入単価：40,000円÷50,500口/1万口≒7,920円
基準価額平均：35,500円÷4ヵ月＝8,875円

資産配分を見直してみよう

一つの資産の商品だけを購入しているような場合は、各資産に分散して投資することを考えましょう。日本と外国の債券・株式等に分散して投資すると、全体の値下がり幅を抑える効果が期待できます。また、リスクの大きな資産は、期待できるリターンも大きいので、相場が大きく下がっている時には株式の配分割合を少し大きくすることで、値上がりした時に早く資産価値を戻せる可能性があります。リバランスで資産配分の変化を元に戻したり、より積極的な資産配分に変更する等、資産配分の見直しを考えてみることも一つの方法です。ただし、より値下がりする可能性もありますので、ご自身があとどれくらい運用できるか、今後の運用期間とともに検討しましょう。



“リそにゃ”とまなぼ！は
毎月発行しています。

バックナンバーはこちら
からご覧いただけます。



<https://www.resona-tb.co.jp/401k/pop/channel/oshiete/>

2024年4月発行

リそな銀行 信託年金営業部
DC運営管理グループ

〒540-8607 大阪市中央区備後町2-2-1

本レターに関するお問合せ先

リそな銀行 確定拠出年金コールセンター
☎ 0120-401-987+「2#」

本レターの無断引用・転載はお断りします。